

令和4年
伊豆市議会9月定例会

一 般 質 問

令和4年9月

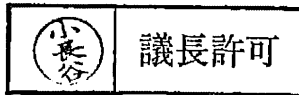
令和4年伊豆市議会9月定例会一般質問者と質問事項

9月6日(火) 午前9時30分～

発言 順序	議席番号. 氏名	質 問 事 項	答 弁 を 求 め る 者	ページ
1	3. 鈴木 優治	1 伊豆市公共施設再配置計画について	市 長	1
		2 小児科の不足危機について		2
2	13. 青木 靖	1 国道・県道整備の状況と今後の展望	市 長	3
		2 まちづくりに影響する人材確保・企業動向への対応		4
3	8. 星谷 和馬	1 人口減少について	市 長	5
4	16. 杉山 誠	1 環境にやさしい農業・農産物の普及について	市 長 教育長	7
		2 市民のための自治体DXをどのように進めますか	市 長	8
		3 男性トイレ個室へのサンタリーボックス設置について		9
5	14. 三田 忠男	1 農業政策からみた福祉事業所との連携の支援について	市 長	10
		2 伊豆市内のコロナ増加の現状と令和4年伊豆市新型コロナウイルス感染症総合緊急対策事業について	市 長 教育長	11

9月7日(水) 午前9時30分～

発言 順序	議席番号. 氏名	質 問 事 項	答 弁 を 求 め る 者	ページ
6	1. 小川 多美子	1 生理の貧困、女性の尊厳	市 長 教育長	12
		2 男性用トイレにサンタリーボックスの設置を	市 長	14
7	4. 飯田 大	1 伊豆市の地域医療の現状と今後の展望、及び田方医師会管内の医療体制について	市 長	15



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 4年 8月 19日

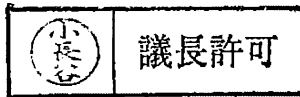
伊豆市議会議長 様

議席番号 3 議員名 鈴木 優治

No. 1

発言の種別 (○で囲む)		一般質問・質疑・反対討論・賛成討論・その他 ()
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求 め る 者
件 名	内 容	
伊豆市公共施設再配置計画について	<p>伊豆市公共施設再配置計画(素案)が本年2月に提案されました。以降各地域で市民説明会が開かれ市民の意見集約が行われていると理解いたします。令和4年5月10日、伊豆市役所別館大会議室にて開かれた修善寺地区の市民説明会に出席いたしました。</p> <p>資料として伊豆市公共施設再配置計画概要(案)が配布され、伊豆市公共施設再配置計画、市内対象施設196施設・18公園、修善寺地区50施設・13公園の対象施設が具体的に表明、説明(方向性を含め)がされました。</p> <p>また、伊豆市公共施設再配置計画の目的についても資料が添付され、次第2、公共施設再配置計画(案)の説明から、次第3の意見交換にと市民説明会はすすめられました。</p> <p>意見交換の内容については、各地区説明会での事情の違いがあると思いますので行政側にて市民の声として集約をお願いいたします。</p> <p>伊豆市公共施設再配置計画(素案)が示されてから6ヵ月が経過しました。ふまえて以下について答弁を求めます。</p> <p>① 再配置に向けた骨太の方針</p> <p>1. 施設の検証による再配置</p> <p>2. 民間譲渡を含めた整理・統合</p> <p>3. 将来の財政負担軽減</p>	市長

件名	内容	答弁を 求める者
小児科の不足危機について	<p>4. 近隣施設による代替機能を考慮した整理・統合</p> <p>5. 積極的な借地の解消</p> <p>と掲げている訳ですが、現在までの進捗状況はどうなっていますか。</p> <p>② 伊豆市公共施設再配置計画（素案）と伊豆市公共施設再配置計画（案）の違いは、国語辞書での意味していることと理解してよろしいでしょうか。</p> <p>③ 意見交換の中での質問、賛成、反対、提案等参考になる意見はありましたか。</p> <p>市民からの声ですが、コロナ禍での小児科医院が見つかりませんでした。行政は伊豆市の小児科不足をどのように把握していますか。お子様がインフルエンザ？プール熱？ではと、かかりつけ医に連絡したところ、コロナウイルス感染のためクローズとのこと。探しても身近なところでは見つからず、函南町まで行きました。慢性的に小児科不足が伊豆市の現状ですよ、と。</p> <p>小児科医院の定義を読んだところ、乳幼児から中学生までが対象者と書いてありました。</p> <p>車で10分以内、歩いても30分以内の圏内にあるべきとか？コロナ禍は特別な事でしたが、現状は、過去には日赤にも小児科があり、修善寺駅北にもあったのではないかと（閉院したとか）。関係部署にて現状把握してください。現状認識はどのようになっておりますか。</p>	市長



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 4年 8月19日

伊豆市議会議長 様

議席番号 13 議員名 青木 靖

No. 1

発言の種別 (○で囲む)		
<input checked="" type="radio"/> 一般質問		質疑・反対討論・賛成討論・その他()
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
1. 国道・県道整備の状況と今後の展望	<p>伊豆市は、伊豆半島の中央部に位置し、主に本市より北側との交流により市民生活や経済活動が成り立っている現状があります。</p> <p>伊豆市総合計画や都市計画マスタープラン等で、市内のまちづくりについては、目標が設定されて、一つ一つ事業に取り組んでいるところであると承知しています。</p> <p>他方、市民生活や市内の産業を考えると、買い物も観光も農林業も医療も教育も福祉も防災も、人の移動や物流については、東名・新東名高速道路、国道1号・136号・414号及びバイパス道路、市内及び隣接する他市にまたがる県道は、その存在なくして市民生活が成り立たない、最も基本的なインフラの一つです。</p> <p>①伊豆市としては、国・県に対し、市民生活に影響を及ぼす国道・県道の整備促進について、それぞれの路線をどう位置づけて、どの路線をどのように要望しているのか、その成果はどうか、又、今後の展望はどうか伺います。</p> <p>②建設部が負担金の支出を所管する道路整備促進期成同盟会・道路建設促進期成同盟会等のそれぞれの活動の内容、現状の成果・実績、今後の活動方針を伺います。</p> <p>③伊豆縦貫自動車道の早期全線開通を推進することを前提として、近隣では、東駿河湾環状道路の西進、伊豆湘南</p>	市長

件名	内容	答弁を 求める者
<p>2. まちづくりに影響する人材確保・企業動向への対応</p>	<p>道路の建設、国道 414 号の沼津市口野までのバイパス道路の建設などが要望され、計画・検討されています。</p> <p>伊豆市に直接影響が大きい伊豆横断道路の整備、災害発災時に重要な役割を果たす縦貫道を立て軸にした横軸の道路の整備、伊豆半島版くしの歯作戦を可能にする道路の建設を促進出来ませんか。</p> <p>第 2 次伊豆市総合計画の後期計画が昨年示されました。その基本方針は、「持続可能な市政運営～ポスト（ウィズ）コロナ、ポスト平成の大合併を見据えた市政運営の礎を築く～」です。本格的な人口減少に戦略的に対応し、安定的な財政運営を堅持する、とするもので、6つの重点目標、12の政策、25の施策からなっています。</p> <p>現在、それぞれ個別・具体的に事業が実施されているところですが、市内のまちづくりに、市外からの人やお金の動きが大きく影響することは言うまでもありません。</p> <p>伊豆市では、窓口業務と施設管理を外部委託する選択をしたところですが、その理由は、業務の効率化より、将来に向けた人員確保の難しさだ、と説明を受けています。</p> <p>①市役所職員の募集と採用の状況はどうなっていますか。又、市内こども園等保育人材の確保の状況はどうなっていますか。現状をどう捉えて、伊豆市で働いてくれる人の確保をいかに取り組みますか。</p> <p>従来から医師確保の課題があり、対応を続けてきたところですが、現状はいかがですか。</p> <p>②諸般の社会情勢から、企業活動がより慎重になっているのか、店舗の出店、不動産会社の宅地開発などは、伊豆の国市までで、伊豆市に入っていない傾向が出始めています。この現状をどう捉えて、どう対応していきますか。</p>	市長



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和4年8月19日

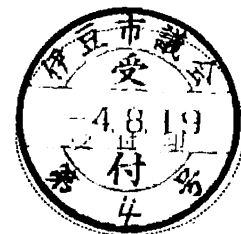
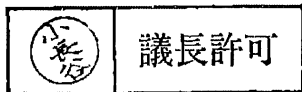
伊豆市議会議長 様

議席番号 8 議員名 星谷 和馬

No. 1

発言の種別 (○で囲む)		<input checked="" type="checkbox"/> 一般質問 ・ 質疑 ・ 反対討論 ・ 賛成討論 ・ その他 ()
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求 め る 者
件 名	内 容	
人口減少について	<p>世界の総人口は今や 80 億人、しかも毎年増加している。一方、日本総人口は 1 億 2,500 万人、毎年減少している。何と東京圏まで減少に転じ、増加は沖縄県のみとなってしまう。昨年の出生数は 81 万 1,603 人、出生率は 1.3%まで低下 (団塊の世代は 250 万人前後)。主要先進国は、コロナ禍でありながらも、昨年の出生数は増加している国が多い。要因は手厚い少子化対策をして、社会、経済活動を通常に戻したからである。また日本の国際競争力は何と 34 位まで低下、人口減少と比例している。</p> <p>米国のある実業家は「日本はいずれ消滅する」と過激な発言。要因として、日本の投資は魅力がない。また現実として多くの外国資本が撤退し始めている。国は効率性を高め、債務残高を削減させる。企業側は、もっと生産性、賃金を上げる必要がある。</p> <p>伊豆市は旧 4 町の合併から 18 年、人口は約 1 万人も減少してしまった。国の社人研の予測では 2045 年、15,152 人。伊豆市まち・ひと・しごと創生は 21,000 人を目標。しかし現在の少ない出生数では届かない、無理である。いずれ限界集落、消滅集落が発生し、美しい里山の田・畑は荒れはててします。持続可能な伊豆市を維持するにはどうしたらよいか。</p> <p>以下について質問します。</p>	市長

件名	内容	答弁を 求める者
	<p>(1) 4町の合併から18年、人口は約1万人も減少した理由は何か、またしっかり検証したのか。</p> <p>(2) 2045年、21,000人の目標達成はできるか。</p> <p>(3) 限界集落、消滅集落が発生する可能性は高い。田・畑を維持する対策は。</p> <p>(4) 民間事業者による宅地開発支援制度を創設しました。その後の進捗は、また他の地区への拡大を検討しますか。</p>	



発 言 通 告 書

下記のとおり発言したいので通告します。

令和 4 年 8 月 19 日

伊豆市議会議長 様

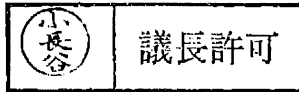
議席番号 16 議員名 杉 山 誠

No. 1

発言の種別 (○で囲む) <input checked="" type="radio"/> 一般質問・質疑・反対討論・賛成討論・その他 ()		
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求 め る 者
件 名	内 容	
1.環境にやさしい農業・農産物の普及について	<p>農業による食料の生産から流通、加工、消費、販売、廃棄に至る流れを包括的にとらえる考え方として重視されている「食糧システム」。その各段階における環境負荷を低減するとともに、温暖化の原因となる二酸化炭素などの温室効果ガスの排出削減を目指す「みどりの食糧システム法」が7月1日に施行された。</p> <p>この中では、有機農業に取り組む面積を全体の25%に拡大、化学農薬の使用量を半減、化学肥料の使用量を30%低減、などを2050年までに達成するとの目標を掲げている。また、2030年までに化学農薬の使用量を10%、化学肥料の使用量を20%低減するなどの中間目標も示されている。</p> <p>化学農薬には、発がん性など人体への影響がないとは言い切れないものもあることに加え、使いすぎると農薬に耐性を持つ病害虫が出現してしまうことも問題視されている。</p> <p>また化学肥料は原料のほぼ全量を海外からの輸入に依存しており、現在の国際状況から輸入が難しくなっていて、脱化学肥料に向けた動きを加速する必要があるとの認識が強まっている。</p> <p>日本は各国と比べ、化学肥料の使用量が多いとされ、世界銀行の調査によると、耕地面積1ヘクタール当たりの化学肥料の使用量について、2018年時点の世界各国の平均が136.8キログラムであるのに対し日本は253.7キログラムとほぼ倍量となっている。</p> <p>こうした現状を踏まえ、みどりの食糧システム法の施行後、政府はみどりの食糧システム戦略の目標実現に向けた基本方針を策定する。都道府県と市町村は連携して基本方針を実施するための計画を作る。とされている。</p> <p>このように農政が大きな転換期を迎えた今、中山間地域で小規模農家が多い伊豆市でも、農業を発展させる可能性があると思われるが、以下の取り組みについて伺う。</p>	市長 教育長

件名	内容	答弁を 求める者
<p>2.市民のための自治体 DX をどのように進めますか</p>	<p>① 市長は6月に「ゼロカーボン戦略宣言」を行ったが、化学肥料の製造、流通、使用に際しても大量の CO₂等の温暖化物質が発生している。化学肥料の使用を削減することも「かけがえのない地球を守る小作戦」につながると思うがいかがか。</p> <p>② みどりの食糧システム戦略基本方針が策定されたのち、市は実施計画の策定を求められるとのことだが、その準備状況はいかがか。</p> <p>③ 先進国の中でもとりわけ低いと言われる日本のオーガニック食品の普及率だが、消費者のニーズは高まりつつある。有機農法の普及に向けた取り組みを強化する考えはいかがか。</p> <p>④ 高齢化等により農業の担い手が減少する中、千葉県陸沢町のように、農業を“副業”としてノウハウを伝授し、耕作放棄地の活用などを進める民間会社を、町が後援事業に認定し支援しているところもある。当市でも研究してはいかがか。</p> <p>⑤ 学校給食において、伊豆市産の特別栽培米も提供されているとのことだが、有機栽培の野菜等について、数量の確保や価格面での課題はあると聞くが、7月に行政視察をした長野県大町市では、学校給食における地産地消のため、年2回「大町を味わう日」として化学肥料等の使用を十分抑えた特別栽培米等を提供し、食の安全・環境や健康問題を考えるきっかけができたとのこと。当市でも地元産のオーガニック野菜等を取り入れた給食を考えてはいかがか。</p> <p>ICT の浸透が人々の生活をあらゆる面で良い方向に変化させることを意味する DX (デジタルトランスフォーメーション)。</p> <p>2020年12月、政府において「デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針」が決定され、目指すべきデジタル社会のビジョンとして「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会～誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化～」が示された。</p> <p>このビジョンの実現のためには、住民に身近な行政を担う自治体、とりわけ市区町村の役割が極めて重要とされている。</p> <p>当市においては本年3月に「伊豆市 DX 推進方針」が策定されているが、策定の目的の一つに挙げられている「デジタル技術を最大限活用し、市民サービスの利便性向上を図る」ことをはじめ、自治体の目的である「住民の福祉の増進」に役立てていただきたい。</p> <p>以下伺う。</p>	市長

<p>3.男性トイレ個室へのサンタリーボックス設置について</p>	<p>① DX 推進個別計画の策定進捗状況。</p> <p>② 窓口手続きの簡素化、オンライン化の具体的内容。</p> <p>③ 行政データのオープンデータ化の目指す目的。</p> <p>④ 自治体 DX に対応した具体的な人材育成計画。</p> <p>⑤ 行政運営の生産性向上が市民サービスに与える効果</p> <p>⑥ 政府の基本方針に、「誰もが参加でき、個々の能力を創造的・最大限に発揮できる、包摂性・多様性あるデジタル社会の形成を図る」とあるが、市民の「誰一人取り残さない」デジタル化実現のため、デジタルデバイド解消に向けたきめ細かな対策はどのように進めるか。</p> <p>⑦ 民間企業の DX 推進に対する啓発と支援・連携はいかに。</p> <p>⑧ コロナ禍の影響で、非正規などで働く女性を中心に、減収や失業などで困窮する人が増えている。政府は女性デジタル人材を育成する方針を決定しているが、国の地域女性活躍推進交付金を活用して技能講座などを開催してはかがか。</p> <p>国立がんセンターが 2018 年にまとめた統計によると、前立腺がんと診断された男性は約 9 万 2000 人、ぼうこうがんは約 1 万 7,500 人に上る。</p> <p>これらのがんは手術後、頻尿や尿漏れの症状が出やすくなる。このため手術を受けた男性は、尿漏れパッドを着用することが多い。しかし公共施設などの男性トイレの個室にはサンタリーボックスの設置が進んでおらず、パッドを捨てる場所がないため、外出先から自宅までビニール袋などに入れて持ち帰らざるを得ない人が数多くいる。</p> <p>このことから、一部の自治体や商業施設の男性トイレ個室にサンタリーボックスを設置する動きが広がっており、磐田市では市役所の男性トイレに設置したほか、公園や図書館などの公共施設にも設置を進めていくとのこと。</p> <p>当市でも高齢化の進展とともに、男性トイレの個室にもサンタリーボックスの必要性は増していると思われるので、多くの利用者がある施設から順次設置を進めてはかがか。</p>	<p>市長</p>



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 4年 8月19日

伊豆市議会議長 様

議席番号 14 議員名 三田 忠男

No. 1

発言の種別 (○で囲む) <input checked="" type="checkbox"/> 一般質問 ・ 質疑 ・ 反対討論 ・ 賛成討論 ・ その他 ()		
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求 め る 者
件 名	内 容	
1. 農業政策からみた福祉事業所との連携の支援について	<p>実りの秋を迎え稲刈りが始まっていますが、稲穂が黄金色に実り、首を垂れる姿は、農村社会の一番素晴らしい景観と自負しておりますが、年々増加している遊休農地の雑草田が景観を壊し、有害鳥獣のすみかになる恐れがあることが気になって仕方ありません。そこで伺います。</p> <p>1. 伊豆市の田畑の面積と遊休農地の面積、その割合</p> <p>2. 遊休農地が増加している原因の分析と対策の現状</p> <p>3. 対策により遊休農地改善の好事例はありましたか。</p> <p>先の6月定例会の一般質問で述べましたが、その対策の一つの事例として、福祉分野と農業政策の連携の取り組み事例が全国から報告されています。伊豆市行政も深く関与する分野ではと考えて、そこで伺います。</p> <p>1. 伊豆市では、福祉分野の連携事業は、遊休農地増加の分析から遊休農地解消の取り組みの事例になると考えられますか。</p> <p>2. 福祉政策からみた農業政策との連携の実態の現状の評価を伺います。</p> <p>3. この取り組みを支援する施策があるか伺います。無いならば創設する用意があるか伺います。</p> <p>4. 健康福祉部と産業部の連携は、6月定例会以降、どのような進展があったのか伺います。</p>	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求 め る 者
<p>2. 伊豆市内のコロナ増加の現状と令和4年伊豆市新型コロナウイルス感染症総合緊急対策事業について</p>	<p>伊豆市内の年齢を問わない新規コロナ感染者数が毎日報道されていますが、伊豆市全体像がよくわかりません。市全体として市長に、教育現場全体として教育長に伺います。</p> <p>1. 発生者が増加している原因分析と対策の現状を伺います。</p> <p>2. その結果、日常生活、経済活動に支障を生じていると思われる分野への現状の把握と要望事項等あったのか、内容はどのようなものかについて伺います。</p> <p>8月の臨時議会後、令和4年伊豆市新型コロナウイルス感染症総合緊急対策事業について説明がありました。9月補正予算や予備費の措置が予定されていますが、全体像を把握するため一般質問をいたします。</p> <p>1. 総合緊急対策事業の目的と意義について伺います。</p> <p>2. 「コロナ禍における原油価格・物価高騰対策」「将来(ウィズコロナ)への投資」「感染拡大防止」の3本柱が掲げられていますが、その理由について伺います。</p> <p>3. この事業以外の施策で検討されたが、採択されなかった事業はありましたか。</p> <p>4. 貧困層や高齢者、医療介護福祉分野事業者への対策はどのように反映されているのか伺います。</p>	<p>市長 教育長</p>



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 4年 8月 16日

伊豆市議会議長 様

議席番号 1 議員名 小川 多美子

No. 1

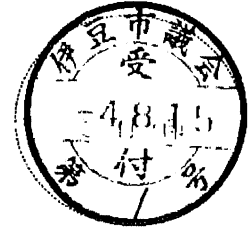
発言の種別 (○で囲む) <u>一般質問</u> ・質疑・反対討論・賛成討論・その他()		
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求 め る 者
件 名	内 容	
1. 生理の貧困、女性の尊厳	<p>コロナウィルスは未だに収束せず仕事や経済面など私たちの日常生活に大きな影響を及し続けています。</p> <p>「生理の貧困」という言葉を最近新聞等でよく目にします。私達女性にとって見逃せない問題です。</p> <p>経済的な理由で生理用品を購入できない女性や女の子たちがいるという問題で、一人で悩んでいる姿を想像すると胸が痛みます。生理用品を入手することが出来なかった時の対処法として、トイレトペーパーやキッチンペーパーで代用する、或いはタオルなど布を使い回す。と言う声を耳にしたことがあります。「食べるが先か、生理用品が先か」と言うことだと思えます。</p> <p>近頃の子ども達は以前に比べ栄養的にも恵まれて体格も良くなり、小学校高学年頃から生理が始まる女の子がいるようです。学校で突然生理になってしまったらどうするかと言う話を身近な中学生やその友達に聞いてみたところ、友達に生理用品を持っているか聞いてみる、或いは保健室に駆け込むとの答えでした。しかし友達に尋ねたり保健室に駆け込んだり出来る子どもばかりではないと思えます。</p> <p>経済的な理由で生理用品を購入できなかったり、羞恥心により他人に聞いたりすることに躊躇があったりという理由で、入手が困難な女性もいると思えます。又友達もいつでも生理用品を持っているわけではないのでトイレに常備してくれてあると嬉しいし助かる。是非そうなっ</p>	市長 教育長

件名	内容	答弁を 求める者
	<p>て欲しいとの答えでした。</p> <p>自治体によっては防災の備蓄や住民からの寄付などを活用して生理用品の無料配布をしているところもあるようです。</p> <p>以前は人前で生理のことなど口にしたり、このような席で取り上げることは考えられる時代ではなかったと思います。しかし、現在はテレビでも生理用品のコマーシャルが頻繁に流れ、雑誌にも堂々と広告が掲載されるなど四半世紀以前頃とは大違いです。以前に比べ生理への偏見は弱まっているとはいえ、学校や職場で無理解であったり、本人にとって意に反し、生理であることを「知られてしまった。恥ずかしい」という声もあるようです。</p> <p>生理については閉経までに約40年間の長期に渡り毎月否応なしに巡って来る数日間、精神的にも肉体的にも憂鬱な期間です。嫌悪感をもたれないように、女性が生き生きと暮らせる社会を作っていけるようにと思いながら次のことを伺います。</p> <p>① <u>生理の貧困ということについてどのように考え、また生理用品を購入できない女性に対しての支援はありますか。</u></p> <p>② <u>市内の小中学校の女性用トイレに、トイレットペーパーを備え付けてあるのと同じように生理用ナプキンを置くことは考えてもらえませんか。</u></p> <p>又この生理の始まる頃は体型的にも変化が現れ羞恥心も芽生える年頃です。新学期を迎え学校医による健康診断があり、恥ずかしくて嫌だと言う声が聞かれます。理由として上半身裸になっての健康診断は、思春期を迎えた年頃の女の子にとっては校医とはいえ男性の医者では恥ずかしくて嫌だということです。</p> <p>そこで</p> <p>③ <u>小学校高学年頃から中学校の女生徒の健康診断について考えていただくことは出来ませんか。</u></p>	

件名	内容	答弁を 求める者
2, 男性用トイレに サニタリーボックス の設置を	<p>近年高齢の男性を中心に前立腺がんや膀胱がんになる方が増えてきているそうです。その影響で尿失禁や頻尿などの症状が起こり、女性の生理用ナプキンのように尿漏れパッドが必要になってきます。しかし外出先でのトイレで使用済みの汚物をどこに捨てたらいいかと困った経験をしたことがある方があるとのこと。公共トイレの環境改善活動を行う一般社団法人「日本トイレ協会」が行った調査では尿漏れパッドやおむつを使っている男性の7割が外出先でトイレにサニタリーボックスがなくて困った経験があると答えているそうです。男性用トイレにサニタリーボックスと聞いても多くの方が何かと首を傾げると思います。</p> <p>女性用トイレにある使用済ナプキン入れの男性用です。今現在尿漏れパッドを使用している人は少数かもしれませんが、ますます高齢化社会になってくるこれからはサニタリーボックスの必要性は高まってくると思います。</p> <p>一般市民はもちろん観光地である伊豆は観光のお客様も多く見えます。外から見えたお客様がトイレで困らないようにというのもおもてなしの一環ではないかと思えます。そこで次のことを伺います。</p> <p>① <u>現在市内の公共施設にはどれくらいのトイレがありますか。その中で頻繁に使用されているのはどれくらいですか。</u></p> <p>② <u>よく使われているトイレにサニタリーボックスは置いてありますか。</u></p> <p>③ <u>現在設置していないトイレにこれから設置する予定はありますか。</u></p> <p>今現在尿漏れパッドなど必要とされていない方も、明日は我が身と思えば是非ご一考をお願いします。</p>	市長



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 4年 8月 15日

伊豆市議会議長 様

議席番号 4 議員名 飯田 大

No. 1

発言の種別 (○で囲む) (一般質問・質疑・反対討論・賛成討論・その他 ())		
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求 め る 者
件 名	内 容	
伊豆市の地域医療の現状と今後の展望、及び田方医師会管内の医療体制について	<p>1 伊豆市の高齢化率は40%を超え、医療の必要性も高くなりつつあり、また、新型コロナウイルス感染症による医療のひっ迫など、市民の皆様も医療体制に関して懸念されているのではないかと思います。</p> <p>そこで、伊豆市の医療体制について、病院や診療所における地域医療の役割や医師の配置について伺います。</p> <p>(1) 市内4地区の医療体制の概要と課題は (2) 国や県の地域医療に対する展望は (3) 地域医療の課題に対しての今後の検討方法は</p> <p>2 伊豆市民が医療を受ける区域として、伊豆市民のみならず伊豆の国市や函南町を含めた、「田方医師会管内」の病院の受診も多くあると思われます。その中でも、伊豆保健医療センターは昭和56年11月に旧田方郡9町村と田方医師会により法人設立された。翌年10月15日に附属病院として開業し、今年10月で40年経とうとしています。この間、調査研究・予防医学の普及啓蒙を図り、特定健康診断をはじめがん検診を実施するとともに、第3次救急を担う順天堂大学静岡病院の後方医療機関として2次救急医療を積極的に受け入れて、地域住民の健康維持及び増進に寄与してきた。</p> <p>また、高齢化により回復期の環境が重要視されるようになり、在宅医療の必要性が高まってきている。昨年4月より、新任医師による訪問診療が強化されて、医療と</p>	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求 め る 者
	<p>介護の両面から患者にとって身近な医療体制に期待がされているところです。</p> <p>しかし、築40年を経過する建物の老朽化は、国の制度改正などによる回復期の施設要件に合わせていくことが難しく手詰まり感があり、今後、維持継続していくのは大変な労力と経費が必要と思われます。</p> <p>命にかかわる医療体制は維持されなければなりません。伊豆保健医療センターの現状認識と建て替えなどの拡充について伺います。</p> <p>(1) <u>現在の年間の維持管理費と病院運営経費、2市1町の負担割合は</u></p> <p>(2) <u>維持管理、運営等について田方医師会と自治体との協議はされているのか</u></p> <p>(3) <u>訪問診療・在宅医療の現状は</u></p> <p>(4) <u>医師・看護師不足の対策は</u></p> <p>(5) <u>建て替え、医療機器の拡充計画はあるのか</u></p>	